

同志社大学経済学部 2016 年度秋学期特別講義「企業分析」

2016 年 10 月 28 日 「勝ち抜く企業の法則」

講師名 竹田忍

学生のベストコメント

■あらゆる企業に関してとても勉強なさっていいようで、多くの関西企業について学びました。しかし、売上だけ上げることにしかどの企業も集中していないように見えました。その目的で新興国に進出することは、その商品によってその国の人々の生活は豊かになるでしょうが、先進国が儲かるだけで、搾取ということにはなりませんか？

講師からのコメント

日本企業が進出先で利益を上げることが搾取であるという考え方には同意できません。エースコックはベトナムでの製造品目にフォーを追加しました。ラーメンは小麦粉が原料で輸入しています。フォーは米粉から作るため、ベトナム産の米を使います。ラーメンで飽和したベトナム市場を、フォーで再開拓する際の外貨流出を抑制し、ベトナム農業の振興につながります。フォーは米国の小麦アレルギー患者向けに輸出します。米のまま輸出するよりも加工品のフォーの方が付加価値は増し、ベトナム経済に好影響をもたらします。

クボタがタイで製造する農業機械によって東南アジアの米収穫量が増えて、現地の食糧事情が好転することのどこが搾取なのでしょう。食べるものが無く、飢えに苦しむアフリカの人みたいな状態に留め置くことが正義でしょうか。売上高を上げることばかりに集中していると言いますが、売り上げの中から利益を得て、それが給与や社会貢献の原資になります。社会貢献にまで言及する時間がありませんでしたが、各社は現地の奨学金や学校の整備にも協力しています。

雇用機会が増え、税収が増え、外貨が稼げます。新興国にとって悪い話ではありません。早朝から深夜まで安い賃金で働かせる「蟹工船」みたいな工場なら搾取と言えるかもしれませんが、日本企業が介在しているケースではあまり聞きません。日本以外の国の企業が関わると「蟹工船」は頻出するかもしれませんが。

世の中には悪い企業もありますが、良い企業の方が圧倒的多数です。良い企業はニュースになりませんが、悪い企業はニュースに載りますから目立ちます。薄っぺらな正義感を振りかざして底の浅い企業性悪説を唱える自称キャスター・コメンテーターの言うことを鵜呑みにするのは大学で高等教育を受けている者としては恥ずべき事です。新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、ネットを比較し、自分でメディアリテラシーを磨いていくことが大切です。

以上